

5章 まち・ひと・しごと 地方創生への道



庄内米の秋の収穫



魚介類が豊富に捕れる庄内浜



焼畑で栽培される赤かぶ



庄内の恵み、海・山・大地の食材



庄内砂丘のメロン



白山地区のだだちゃ豆



種のない柿「庄内柿」

1 山形発！ 世界に発信

コラム 37 砂丘メロンと地域づくり ～鶴岡市西郷地区～

庄内砂丘では、強風と飛砂から暮らしを守るために、江戸時代から砂防林の整備が進められ、西郷地区でも砂防林に守られて、メロン生産などの砂丘地農業が発展してきました。

「鶴岡市西郷地区農林活性化センター」は、このような地域の歴史や自然を後世に引き継ぐための交流拠点施設として、鶴岡産のスギで建築され、燃料には砂防林のクロマツから作られたペレットを使うなど、地域の資源をふんだんに生かして整備されました。

当センターは、森づくり関係の研修会や、メロンなどの農業体験、帰省客を含む地域住民の夏祭りなど、地域内外の人が集まる拠点となり地域づくりに大きく貢献しています。



センターにおける砂防林の下刈体験

(1) 世界に認められた食の都「庄内」

①日本初のユネスコ創造都市（食文化）に 認定された鶴岡市

2014（平成26）年12月1日、鶴岡市は、日本で初めて食文化部門においてユネスコ創造都市に認定されました。鶴岡の誇る食文化がユネスコによって世界的に認められたということです。

鶴岡市の面積は東北地方でもっとも広く2,000m級の高山から0mまでの高低差があり、幅広い温度帯をつくり出しています。さらに四季の変化がはっきりし、多種多様な農産物や山菜などに恵まれています。市の西側は日本海に面しており、対馬暖流の影響で、季節ごとに様々な旬の地魚が水揚げされます。そして、市の北部は広大な庄内平野が広がる、日本有数の穀倉地帯となっており、おいしいと評価の高い「つや姫」を開発した県の試験場があります。

鶴岡市の豊かな食文化は突如実現したものではありません。種のない不思議な柿の木に将来性を感じ苗木を育成し普及に励んだ「庄内柿」や庄内砂丘の特性を生かした庄内砂丘メロン等、先人たちが自然と生命の営みに誠実に向き合い、たゆまぬ努力と研さんにより培われました。また、だだちゃ豆などの在来作物が50種類以上も継承されていますし、温海かぶの生産では、自然と一体に進める伝統的な焼畑農法を守り伝えています。

家庭には、四季折々に数百種の郷土料理が受け継がれています。鶴岡市で生まれた学校給食では、地元の食材を用いた料理が提供され、子どもたちの食の教育も進められています。さらに、伝統的な調理法を守る料理人とクリエイティブな料理人の双方の取り組みにより、郷土料理は発展し国内外で高い評価を受けています。



出羽三山の精進料理

舞茸と厚揚げの煮物、胡麻豆腐のあんかけ、煎りなめこ、季節の野菜の天ぷら、カサノモト（菊）の酢の物、カラトリ（ズイキ）の胡麻みそ和え、イタドリとトマトの酢の物、ぶなかのか（キノコ）の和え物、あけびの皮の煮物、きのこの味噌汁



- ① 黒豆ご飯
- ② 焼き豆腐の田楽
- ③ ハタハタの田楽
- ④ 黒豆なます
- ⑤ 納豆汁
- ⑥ 米炒り

大黒様のお歳夜の献立（提供：つるおか おうち御膳）



- ① ご飯
- ② 赤かぶ漬
- ③ 口細カレイ
- ④ イクラなます
- ⑤ 雑煮餅
- ⑥ 鮭と大根の煮付け
- ⑦ 菊のお浸し

田の神上げの献立（提供：つるおか おうち御膳）

② 庄内に伝わる伝統的な御膳

～ミシュランも認めた出羽三山精進料理～

ミシュラン・グリーンガイド・ジャポンに羽黒山の「杉並木」^{さんじん}「三神合祭殿」^{ごうさいでん}の他に、出羽三山精進料理を出す「斎館」^{さいかん}などが紹介されています。羽黒山には、山伏が食べていたという多くの種類の精進料理が伝わっています。山伏の食事は、もともと、自給自足だったと言われていました。昔はその日に採れたものを、その日のうちに生のままで食べていましたが、だんだんと火を通す調理方法も取り入れるようになりました。生では食べられないアクの強いものも、おいしく食べる方法を探して、塩漬けや乾燥させて保存するようになり、山に来られた方に振る舞うようになったと言われています。2011（平成23）年には、フランスとハンガリーで、羽黒山伏による山伏文化の紹介と斎館料理長による調理デモンストラレーションが開催され、精進料理の背景にある「庄内の豊かな自然」と「羽黒修験道の精神」^{しゅうげんどう}を凝縮した味が絶賛されました。また、2015（平成27）年には、イタリア・ミラノで開催された国際博覧会でも紹介され、精進料理が世界の注目を集めました。

そのほかにも、鶴岡市では大黒様のお歳夜の献立や田の神上げの献立が家庭の中で受け継がれています。大黒様のお歳夜（12月9日）は大黒様が妻を迎える夜とされています。豆炒りや米炒り、まっか大根（二股大根）を供え、納豆汁や黒豆料理と大根料理を食べて、豊作と子孫繁栄を祝います。豆と大根は畑作物の代表であり、それらを供えることは大黒天を農神として信仰していることを示しています。

田の神上げ（11月23日）は、1年間田を守っていただいた神様に感謝し、田の神が山に帰るのを送る日に食べる献立です。今年採れた新しい餅米で餅をつき、箕に入れ、稲穂、お神酒、新米と尾頭付きの焼き魚とともに神棚に供えます。その年の新米は田の神上げの際に初めて食べていました。

コラム 38

ミラノ万博で山形・鶴岡の食文化を発信（2015年10月）

イタリア・ミラノ国際博覧会（万博）の「日本館」イベント広場で2015（平成27）年10月2日、日本で初の「国連教育科学文化機関（ユネスコ）食文化創造都市」に認められた鶴岡市が、だだちゃ豆に代表される伝統野菜や出羽三山の精進料理など地元の食文化を発信するイベントを行いました。東奥三大霊場の一つ、出羽三山にある羽黒山斎館の料理長伊藤新吉さんは、ごま豆腐や地元産タケノコなどを使った精進料理を振る舞い、鶴岡市のイタリア料理店のオーナーシェフ奥田政行さんは、だだちゃ豆と庄内米を使ったりゾットなどを紹介しました。



羽黒山精進料理



Tsuruoka City was the first city in Japan to be selected as a UNESCO Creative City of Gastronomy. Tsuruoka has areas with very different altitudes and clear difference between the seasons, so a wide variety of agricultural products are grown there. The mountain areas in Tsuruoka are rich in natural blessings, like various *sansai* (edible wild plants). In the western part of the city, facing the Sea of Japan, delicious fish are caught in every season. The northern part of the city, where the vast Shonai Plain spreads, is one of the leading rice production areas in Japan. Also, more than 50 kinds of conventional crops, such as *dadacha-mame* (gourmet soybeans) and *atsumi-kabu* (red turnips), have been passed down.

In the Shonai region, traditional cuisine has been passed down as well. “*Dewa Sanzan shojin-ryori*” (Buddhist vegetarian cooking) is included in the *Michelin Green Guide Japon*. Moreover, the dishes *Daikokusama-no-Otoshiya* and *Tanogamiage* have been handed down in each home in Tsuruoka.



山形国際ドキュメンタリー映画祭2015（平成27年10月9日 山形新聞）



多数のエキストラが参加した撮影



フィルムライブラリー



子ども映画ワークショップ

（山形国際ドキュメンタリー映画祭2015より）



桜の霞城公園撮影



東北芸術工科大学

コラム 39

ヒット映画誘致の秘密

—山形フィルム・コミッション—

豊かな自然が残る原風景、^{そうごん}荘厳な歴史建造物、そして東京から新幹線で一本という利便性などもあり、今、山形は多くの映画・TV関係者が注目する場所になっています。ヒット作誘致には、「おもてなしの心」を持って映像の撮影が円滑に進むよう、陰で支える「山形フィルム・コミッション」の存在があります。

「山形フィルム・コミッション」の支援の一つは、許可申請を一手に引き受けることです。「るろうに剣心 京都大火編／伝説の最後編」の撮影では、旧県庁舎「文翔館」で撮影したいという希望を受け、県への許可申請を進めました。

二つ目は、「必ず撮影に立ち会う」ということです。映画の撮影では、制作者と地域住民が互いに信頼されることが大切で、そのために、必ず撮影に立ち会い、撮影を円滑に進めています。



撮影場所となった文翔館

（2）映画分野で創造的資産のある山形市が ユネスコ創造都市を目指す

山形市は、日本で初めてとなる映画分野でのユネスコ創造都市への認定を目指しています。山形市では、これまでも映画分野で創造的な活動をしてきており、多くの実績を積み重ねています。

①毎回2万人以上参加する「山形国際ドキュメンタリー映画祭」

本映画祭は、世界最高のドキュメンタリー映画祭の一つと評され、世界が注目し続けています。映像文化の多様性を保持し、映画と人との深い交流を目指した四半世紀にわたる実践の歴史は揺るぎないもので、世界の映像作家たちから厚い信頼を寄せられています。

②13,000余りの記録映画を収蔵する

「山形ドキュメンタリー・フィルムライブラリー」

山形国際ドキュメンタリー映画祭の開催のたびに、集積されてゆく貴重な世界の記録映像は、現在、13,000余りで、それらの作品をすべて収蔵しています。その価値は今後ますます高まり、まさに世界遺産クラスの貴重な「映像現代史」となっています。

③地域活性化に貢献する「山形フィルム・コミッション」

映画、テレビドラマ、テレビコマーシャルなどの映像作品の撮影を地域に誘致し、実際に撮影が円滑に行われるための様々な支援を行う非営利公的機関で、山形市役所内の事務局で運営されています。撮影支援に関するサービスは無償で行い、撮影実績は10年間で480件になっています。

④数多くの映像クリエイターを輩出している「東北芸術工科大学」

若い文化芸術の担い手を育成しているのが東北芸術工科大学です。これまでも、数多くの映像クリエイターを輩出し、日本で、世界で活躍しています。また、2014（平成26）年から、山形をアートの街とした「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ」を開催しています。

⑤子ども映画ワークショップの取組み

小学生から高校生までを対象として、映画に関するワークショップを開催しています。学校では学べない「観る」「作る」「表現する」喜びに子どもたちの目が輝いています。



2015（平成27）年度新庄まつり260年祭ポスター



三國志赤壁の戦い「諸葛亮孔明の知略」（H27最優秀賞）



新庄まつり神輿渡御行列

（3）ユネスコ無形文化遺産を目指す 「新庄まつりの山車行事」

①国指定重要無形文化財からユネスコ無形文化遺産に

2009（平成21）年3月、「新庄まつりの山車行事」が、「日本の山・鉾・屋台の祭りの変遷を知る上で重要である」として、国の重要無形民俗文化財に指定されました。そして、2015（平成27）年3月、京都祇園祭の山鉾行事等とともにユネスコ無形文化遺産に提案されました。

②市民がつくり上げる日本一の山車まつり

初日の「宵まつり」、各町内の若連が1か月余りかけ、精魂込めてつくり上げた山車は、8月24日の夕刻、子どもたちに引かれて動き出します。歌舞伎の名場面や歴史絵巻を再現した山車に照明が入ると、人々を光と影が織り成す幽玄の世界へといざないます。2日目、神輿渡御行列が戸澤神社を出発し、いよいよ豪華絢爛の20台の山車の登場です。そして、最終日、新庄市や日本各地の郷土芸能が披露される中、各町内山車小屋を出発した山車全20台が市内中心街に一同に集結（飾り山車）し、街中、鹿子踊が開催されます。南本町十字路での手締め式で新庄まつりはフィナーレを迎えます。

ここには、神輿担ぎ手や鉄砲組の子ども、山車の作り手である若連や曳き手となる小若、囃子若連など世代を超えて市民でつくり上げている姿を見ることができます。また、商業地域の人たちが山車を作り、農村地域の人たちが囃子を担当するという都市と農村の連携など、「新庄まつり」を通じた地域コミュニティの活性化が図られています。

コラム 40

新庄まつりの起源

藩政時代の1756（宝暦6）年、時の藩主戸澤正誼が、前年の大凶作で打ちひしがれている領民に活気と希望を持たせ、豊作を祈願するために、戸澤氏の氏神である城内天満宮の「新祭」を領内あげて行ったのが起源とされています。

約260年前に始まったまつりは、その長い時の流れの中で、少しずつ変貌を遂げてきました。しかし、いくら歳月を重ねても、変わらなかったものは、人々のまつりにかける情熱です。宵まつり・本まつりに絢爛豪華を競う日本一の山車パレード、古式ゆかしい神輿渡御行列、新庄城址で踊られる風雅な萩野鹿子踊・仁田山鹿子踊…。藩政時代をしのぼせる歴史絵巻が繰り広げられる新庄まつりは、圧倒的なスケールで、見るものを魅了します。新庄の夏は、毎年、このまつりの興奮と熱気でフィナーレを迎えます。



Yamagata City is trying to be certified as a UNESCO Creative City of Film, and takes creative part in the field of movies with events such as the Yamagata International Documentary Film Festival. The Yamagata Film Commission has invited as many as 480 movies, TV programs, dramas, and commercials to Yamagata in the past ten years.

The Agency for Cultural Affairs proposed the *yatai* (festival float) events in the Shinjo Festival as an Intangible Cultural Heritage. This festival actively involves the local communities: people in the commercial areas make *yatai*, while people in the agricultural areas play festival music. All of the citizens, both young and old, work together to hold this festival.



さくらんぼ狩り



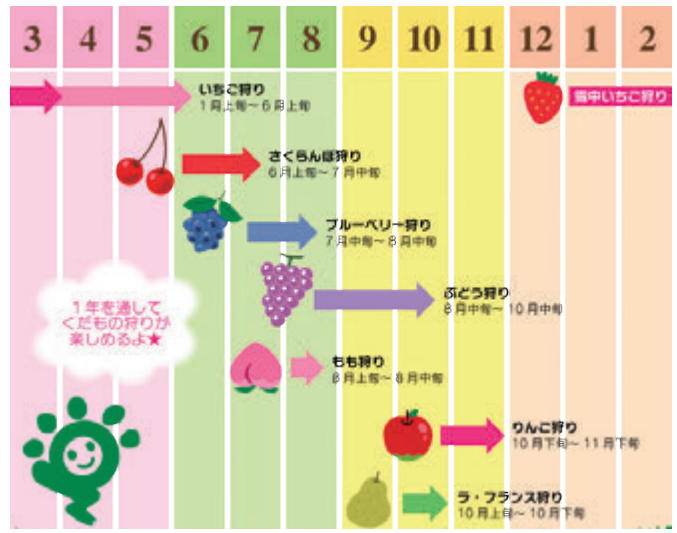
ぶどう狩り



ブルーベリー狩り



いちご狩り



寒河江市観光果樹園周年カレンダー



「道の駅寒河江チェリーランド」



食と農の拠点「さがえ西村山アグリランド」

2 山形らしく、地域づくり

コラム 41

日本有数のばらの産地

湯船に浮かぶ無数のばらの、ゴージャスな香りに包まれて…寒河江市特産品・ばらを使ったユニークなお風呂が評判を呼んでいます。美肌効果の湯にばらが浮かぶ光景はとっても優雅、芳しい香りでお心まで満ち足りた気分になります。

さくらんぼの産地で有名な寒河江市は、花の栽培も盛んで、ばら、きく、ストック、トルコぎきょう、洋ラン、花木、鉢物等を生産しています。中でも、ばらの生産は急速に伸びており、花き産出額全体の約8割を占め、寒河江市は、日本有数のばらの産地となっています。



新寒河江温泉 ばら風呂

(1) 日本最初のグリーン・ツーリズム(観光農業)を進めたまち寒河江市

①一年を通して果物狩りが楽しめる観光農園

寒河江市はさくらんぼの産地として全国的に有名で、現在は年間120万人の観光客が訪れています。しかし、30年前はたった5万人でした。それを大きく変えたのが地域ぐるみでの観光農業(グリーン・ツーリズム)への取組みです。さくらんぼ狩りだけでなく、いちご、もも、ぶどう、りんご、ブルーベリー狩り、田植えや稲刈りなどを『体験』し、それぞれを観光化する企画を考えたことにより、年間を通して途切れることなく観光客が訪れています。

日本の観光農業(グリーン・ツーリズム)が、農林水産省により提唱されたのは1992(平成4)年のことですが、寒河江市はそれよりずっと早い1984(昭和59)年に、農協、寒河江市、農家に加えて、温泉旅館、鉄道・バス会社、飲食店などのあらゆる観光関連事業者が参加する「寒河江市周年観光農業推進協議会」を設立しています。

②大規模施設を拠点に「食と農」による地域の活性化

寒河江市では、「道の駅寒河江チェリーランド」と「さがえ西村山アグリランド」の大規模施設を拠点に「食と農」による地域の活性化を目指しています。

「道の駅寒河江チェリーランド」には、さくらんぼの資料を展示する「さくらんぼ館」のほか、「チェリドーム」、「トルコ館」などがあります。また、人気の手作りアイスは米やゴマなど常時14種類を用意しています。特産品「豊国草履」の販売や「雪中いちご狩り」も行われています。「さがえ西村山アグリランド」の産直センターには、500名を超える農家が、新鮮でおいしい農産物を出荷しており、そのひとつひとつが顔の見える安全で安心な逸品です。県内最大級の売り場面積を誇っており、朝採りの新鮮な野菜や、他店では販売されていない珍しい野菜も販売しています。



大石田元気プロジェクトー OGPー



南陽市の若い力「米部」のスタッフとその仲間

(2) 地域興しの若い力

① 郷土料理による地域活性 大石田元気プロジェクトーOGPー

大石田町は、「そばの里」として有名ですが、「にぎりばっと」というそばの郷土料理を活かして食を通したまちづくりを行っているのが、若者の地域興しサークル「大石田元気プロジェクトーOGPー」です。

昔、麺状にしたそばは殿様への貴重な献上品で、庶民が食することは禁じられていました。しかし、当時の人々は、飢えをしのぐため何とかそばを食べようと、にぎっておつゆに入れて食べたのが「にぎりばっと」の由来です。にぎって指のあとを付けることとご法度がかき合わされ、なまって「にぎりばっと」となった郷土料理です。県内各地の様々なイベントに出展し、大石田町をPRしています。

また、地元の高校生と連携して取り組んでいる「大石田そばシリーズ」では、そばの種まき、そば挽き、刈り取り、そば打ち、そば染め等の体験活動を企画・運営し、町内外から多くの参加者が集まっています。「大石田の元気と魅力を新発見・再発見」をコンセプトに郷土愛あふれる活動を展開しています。

② 地域づくりに励む南陽市の若き農民グループ「米部」

南陽市では、若者によるまちづくりの活動が積極的に行われています。その中の一つに若者5人による「米部」があります。米を用いた独自の南陽ブランドを生産から販売まで一貫している点が高く評価され、「夢はぐくむ故郷南陽コンペティション」で大賞に輝きました。

大切な人に贈りたいと思うような甘くておいしいお米をつくりたいという発想から、りんごの堆肥を使ったお米「あまい」をつくることを思いつきます。米農家であるメンバーの田んぼを借り、果樹農家でできた傷モノのりんごをフルに活用しました。より甘くするために、りんごを堆肥としてだけでなく丸ごと田んぼにまいたり、恋愛の俳句を稲に読み聞かせたりと、異例の米づくりに挑戦しました。りんごが功を奏してか、より糖度の高いお米ができました。



贈答用ブランド米
米部作「あまい」

コラム 42

若い力が躍動「徳内まつり」

むらやま徳内まつりは、若い力が躍動する新しい祭りで、1995（平成7）年から始まりました。

「徳内ばやし」は、郷土出身である、江戸時代の北方探検家『最上徳内』が建立した神明宮（現・厚岸神社）に伝わるお囃子が村山市に伝わり、独自の発展を遂げました。

豪華絢爛な山車に、鉦、笛、大太鼓、綿太鼓、掛声等からなる囃し手が乗り込み、踊り手は鳴子を手にアップテンポなお囃子に合わせて勇壮かつ華麗に踊ります。

8月下旬、村山市内を会場に開催される祭りでは、各団体が特色のある踊りを繰り広げます。会場となる沿道では、山車や躍動感溢れる踊り手たちを間近で見られ、ステージ観覧席では、趣向を凝らした演出による「SHOW」を体感できます。



In 1994, Sagae City started agritourism, or “green tourism,” for the first time in Japan. Green tourism is popular in Europe, and was first proposed in Japan in 1992. Tourists come to Sagae all year round to enjoy picking cherries, strawberries, peaches, grapes, apples, blueberries, and more, or to experience rice planting and harvesting.

Some young people in Yamagata actively engage in *machizukuri*, or community development. Among them are five young people in Nanyo. They call their group “Komebu”(The Rice Club). Komebu succeeded in creating a special rice, “Amai,” grown in apple compost. Amai-brand rice is popular as a gift.



三川町「菜の花まつり」での写真撮影風景



山形県トラック協会と連携した朝日町の菜の花栽培

コラム 43

ばら栽培で地域づくり (鮭川村)

鮭川村の山間の曲川地区にばら栽培のハウスが8棟並びます。同じように京塚地区にも8棟あり、約60種類のばらを年間350万本生産しています。

冬期間の日照不足を補うために、ばら栽培では日本で初めてナトリウムランプを取り入れた水耕栽培、アーチング方式(地上50~60cmの架台上的ベッドで栽培する方法)など最新の技術と管理で高品質のばらを日本全国に届けています。

地元の多くの人たちが誇りを持って働いています。



ばら栽培の曲川ハウスとスタッフ

(3) 花を活かしたまちづくり

① 菜の花が町中に咲き誇る三川町

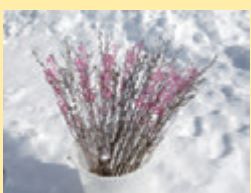
春は菜の花の季節です。この時期、三川町では鳥海山や月山を背景にして菜の花が美しく咲き誇り、県内外から大勢の観光客が訪れます。ゴールデンウィークには「いろり火の里」において『菜の花まつり』が開催されます。紺の着物に赤い前掛け姿の笑顔も愛らしい菜の花娘をモデルにした写真撮影会には、県内外から多くのアマチュアカメラマンが訪れます。

② トラック協会と連携した「菜の花プロジェクト」~朝日町水本~

山あいを開けた朝日町水本地区では、農産物価格の低迷や担い手不足から、田んぼ、ホップ畑、牧草地などの耕作放棄地の増加に悩んでおり、耕作放棄地を活用して地域農業を支援する団体を募集していました。一方、公益社団法人山形県トラック協会では、菜の花を栽培し、それを原料にしてトラックの燃料にする環境負荷軽減に取り組もうと事業候補地を探していました。

お互いの目的が一致し、トラック協会と地区の住民で構成する協議会を設立し、町と連携して「菜の花プロジェクト」に取り組むことになりました。2007(平成19)年度から取り組み、耕作放棄地だった場所は、一面の菜の花畑に生まれ変わりました。5月の連休明けに開催される「水本菜の花観写祭」には多くの人を訪れるようになり、地域の活性化につながっています。また、菜の花食用油を学校の給食施設に無料で提供したり、収益金の一部を子どもたちの環境教育のために、町に寄付したりするなどしています。

コラム 44 日本一の啓翁桜~正月を可憐に彩る冬の花~



啓翁桜はつぼみの状態で出荷され、届いた人の手元で満開を迎えます。



雪に覆われた畑のなかで休眠中の啓翁桜。この枝を切り出し、ハウスの中で温度調節しながらつぼみまで育てます。

冬に観賞できる桜として人気の高いのが「啓翁桜」です。山形県は、栽培に適した気候風土や高い技術力から全国一の出荷量を誇っています。

山形の秋から冬にかけての厳しい寒さで木は休眠し、出荷にあわせて、休眠打破処理や促成管理を行います。すると木は「春が来た!」と勘違いするという仕組みです。ちなみに、啓翁桜の出荷時期は12月から翌年の3月までです。

現在は正月を可憐に彩る冬の花として人気が高く、卒業式や入学式といったハレの日を華やかに彩る花としても注目が集まっています。

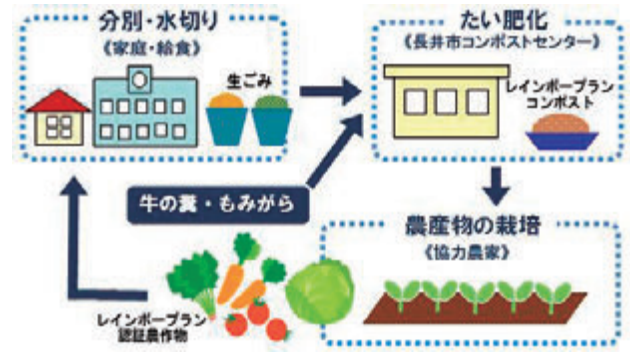


除草剤を使わず手作業での除草



田んぼの生きものを指標に学ぶ

上和田の特別栽培米



長井市レインボープランの仕組み



生ごみの回収



コンポスト



レインボー野菜

(4) まち全体が協力し合う有機農業

①全国に知られる有機農業の里“高島町”

まほろばの里・高島町、その中の和田地区は全国に知られる有機農業の盛んな地域で、「ゆうきの里」と呼ばれています。高島町は、約30年も前から若者が中心となった有機農業運動のたゆみない足跡があり、生命と環境にやさしい農の未来を目指してきました。

上和田地区の水田では、動物94種類、植物59種類の多くの生き物が確認できます。これは、化学肥料や農薬、除草剤を使わず、オリジナル有機肥料や天然鉱石を原料としたミネラル肥料を使用し、組合員が一丸となって手作業で除草をするなど、土壌の環境や生き物にやさしい米づくりをしているということです。

このような農業で生産されたのが上和田有機米生産組合の「特別栽培米」で、全国米食味鑑定コンクールで5年連続で金賞を受賞、第15回環境保全型農業推進コンクールで農林水産大臣賞を受賞しました。

②循環型社会への挑戦～長井市レインボープラン～

レインボープランは、長井市の家庭生ごみの分別収集、長井市コンポストセンターによる生ごみの堆肥の生産、農家による安全な農作物の生産という、地域内での有機資源の循環利用システムです。

長井市では、農家と消費者との相互理解を深めることで、自然環境の改善と健康な食生活を生み出し、自然と人間の永続的な共存を図ることを目指しています。特に、レインボープランで作られた堆肥のすべてが長井市内の田畑に戻され、生産された農作物（レインボー野菜）が市民の食卓に提供されることが高く評価されています。

生産者の顔が見える、安心して食べられる農産物として、学校給食やNPO法人レインボープラン市民市場「虹の駅」、NPO法人レインボープラン市民農場、JA直売所「愛菜館」、常設店（「長井村塾」やレインボープラン農産物取扱店）を通して市民の食卓に届けられています。

コラム 45

置農MOTTAINAIプロジェクト

置農MOTTAINAIプロジェクトは、県立置賜農業高校を中心とした産学官連携の地域資源リサイクルシステムです。

ワイン製造事業者等から排出される「ワイン残さ」を、置賜農業高校で飼料化し、その飼料を同校や畜産農家で飼育している豚や鶏に与え、肉のブランド化を図っています。さらに、畜産農家から排出される糞尿で堆肥を作り、その堆肥でぶどうを栽培し、そのぶどうをワインづくりの材料にします。

このプロジェクトには、高島ワイン株式会社、山形食品株式会社、野川豆腐店、置賜MOTTAINAI研究会、やまがた地鶏振興協議会が参加しています。



置賜農業高校MOTTAINAIプロジェクトチーム



Flowers are used as a means of community development in Yamagata. In Mikawa Town in spring, rapeseed blossoms bloom against the background of Mt. Chokai, and this beautiful scenery attracts many tourists. The Yamagata Trucking Association grows rapeseed plants in Asahi Town and uses them as fuel. In Sakegawa Village, they build greenhouses in mountainous areas and produce about 3,500,000 roses (about 600,000 kinds) every year. *Keiozakura*, a variety of cherry blossoms that bloom in winter, are grown in many places in Yamagata.

In some parts of Yamagata, people are working to introduce organic farming and promoting a recycling society. Takahata Town is famous nationwide for organic farming, and the organic rice produced in the Kamiwada district has won several awards. Nagai City promotes a recycling society with its Rainbow Plan, which is a regional distribution system. They grow vegetables and fruits using the compost made from the raw garbage.



ひじおりの灯2015の開催 (撮影/FLOT 瀬野広美)



ひじおりの灯を制作する東北芸術工科大学の学生



酒田市飛島風景



島の祭典「アイランダー」で飛島を紹介する、東北公益文科大学と島の若者たち

3 大学生と取り組む 地方創生

コラム 46

飛島のスタチ ～北限のかんきつ類へ

地球温暖化に伴い植物の生育環境が変化する中、県は2010(平成22)年から「温暖化対応プロジェクト」に着手し、常緑果樹であるかんきつ類の試験栽培を、酒田市の浜中と飛島で始めました。その結果、飛島では、5年目の2015(平成27)年には、3本の樹から300個のスタチが収穫されました。

離島の飛島は県の最北に位置していますが、周囲を対馬暖流が流れているため、年平均気温が12度以上と県内で最も高く、積雪も10cmに達することはまれで、タブノキやヒサカキなどの常緑広葉樹に覆われる温暖な気候であることから、試験栽培地に選ばれました。

成木になり安定した収穫が得られれば、「北限のかんきつ類」として、島の新鮮な魚介類などに利用した料理レシピや加工品が開発できると期待されています。



飛島のスタチ

(1) アートプロジェクト「ひじおりの灯」 (肘折温泉×東北芸術工科大学)

「ひじおりの灯」は、大蔵村肘折地区と東北芸術工科大学が、肘折温泉開湯1200年を迎えた2007(平成19)年の夏から共同で開催しているアートプロジェクトです。霊峰月山の麓で、いにしへの湯治文化を今に伝える肘折温泉では、毎夏、山形に縁ある若手画家に作画を依頼した灯籠絵「ひじおりの灯」を、夏の夜の温泉街で点灯しています。

東北芸術工科大学で絵画やデザインを学ぶ学生が2泊3日の合宿を行うなかで、肘折に住む人々から民俗学的手法で聞き取り調査を行います。そしてその話をモチーフとして、手漉きの月山和紙に各自が思い描いた「肘折絵巻」を表現していきます。その絵巻は庄内地方の職人の手で灯籠として組み立てられ、肘折温泉の夏の夜を彩っていきます。

2015(平成27)年7月25日、9年目・9回目の開催となる今夏も、肘折の暮らしの情景や、古くから語り継がれる民話、地藏信仰、周辺の雄大な自然などを描いた、新作18基を含む美しい灯籠絵43景が訪問客を楽しませてくれました。

(2) 若者が文化の拠点をつくる(飛島×東北公益文科大学)

東北公益文科大学では、2001(平成13)年の開学時から「島を元気にする」活動を実践しています。島内外の団体と共創して「飛島グリーンアップ作戦」「天保そば&ごども収穫感謝祭(島民と応援団の交流)」「三島交流会(佐渡・粟島・飛島の島づくりを学ぶ交流)」に運営参加したり、農商工連携「とび魚だしプロジェクト」で特産品開発を進めてきました。現在は、観光情報発信、地区防災計画づくりの支援に取り組んでいます。

その中で、2011(平成23)年に、島民、島の応援団(NPO、大学)、県、酒田市が共に島の未来を話し合い、事業を進める「とびしま未来協議会」が発足しました。住民主体の離島振興計画策定に取り組み、将来を見つめた議論が活発になる中、2013(平成25)年に「合同会社とびしま」が誕生しました。現在20~30代のU・Iターン者8人で、歴史文化の保存・継承の活動を基盤に、1~3次産業までを一体化して行う6次産業を目指しています。また、東北公益文科大学が企画運営した共創・交流拠点「しまの家」の理念が、同会社に新しい形で引き継がれ、島の食や観光情報を提供する「島のカフェスペース しまかへ」「島の駅 とびしま」や資料館「島のミュージアム 潤」、特産品開発を行う加工所等の拠点づくりを進めています。



山形大学COC推進室活動事業 地域の課題を聞く学生



最上地域でのボランティア活動（山形大学）



山形市中心商店街活性化（東北芸術工科大学）



酒田おもてなし隊（東北公益文科大学）

（3）地（知）の拠点大学による地方創生の活動

①山形大学の取組み

～自立分散型（地域）社会システムを構築し、運営する人材の育成～

山形大学は、県内各地域が抱える課題解決策を研究して、持続的に発展し得る活力ある社会システムを構築するために、地域の課題に対応できる人材を育成することを目指しています。各事業実施地域（山形県、山形市、米沢市、鶴岡市、上市市、真室川町、戸沢村）にはCOC地域推進部会を設置して推進しています。

②東北公益文科大学

～地域力結集による人材育成と複合型課題の解決～庄内モデルの発信～

大学を中心に、庄内の地域課題について共に学びあい解決策を考え、実際に行動する人材を育て、「庄内地域カレッジ」など具体的な活動を展開する庄内モデルの構築と発信を行っています。「酒田おもてなし隊」は、山形デスティネーションキャンペーンを学生の力で盛り上げようと酒田駅にて送迎と案内の活動を実施して多くの観光客をもてなし、また地域の方の笑顔を集めた動画を製作し魅力を発信しています。

③東北芸術工科大学

～人口減少期の芸術・デザインによる地域の新価値創造～

芸術・デザインの潜在力で、人口減少期の地方の「新しい豊かさ」を創造する人材の育成を通して、自治体、市民と協働しながら、「創造的に暮らし活動する人」、「市民活動に関わる“活動人口”」、そして「交流人口」を地域に根付かせる、新しい価値の創造事業を推進しています。

コラム 47

地（知）の拠点大学による 地方創生推進事業（COC+）



文部科学省では、平成27年度から、大学が地方公共団体や企業等と協働して、学生にとって魅力ある就職先の創出をするとともに、その地域が求める人材を養成するために必要な教育カリキュラムの改革を断行する大学の取組みを支援することで、地方創生の中心となる「ひと」の地方への集積を目的として「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」を実施しています。

山形県では、山形大学が採択され、東北公益文科大学、県立米沢栄養大学、東北文教大学、東北文教大学短期大学部、鶴岡工業高等専門学校も事業協働機関として参加しています。



University students in Yamagata contribute to the vitality of their communities. The students of Tohoku University of Art and Design carry out an art project called “*Hijiori-no-Hi*,” or “the lantern light of Hijiori.” The beautiful artwork on lanterns shows the lives of the people, the folk tales, and the nature of Hijiori, and delight visitors. Students of the Tohoku University of Community Service and Science help the people of Tobishima Island with work and events and are learning about lifestyles and regional development on the island. Yamagata University, Tohoku University of Art and Design, and Tohoku University of Community Service and Science are designated as COC+ (Center of Community) universities. Students of each university are studying and thinking about how to solve regional problems together.



黒森歌舞伎を演じる子ども（酒田市）

かた雪渡り
かた雪アごっち
いぬこちアごっち
こっちごち
こち



(絵：高橋貞二)



童唄を歌う真室川町立真室川あさひ小学校の児童（真室川町「安楽城の童唄保存会」）



絶滅が危惧される蝶を観察する子ども（チョウセンアカシジミを守る会 川西町）
（平成23年6月21日 山形新聞）



小田島田植踊（東根市「小田島田植踊子供伝承会」）

4 地域を元気にする『ふるさと塾』

コラム 48

『ふるさと塾アーカイブス』について

県内全体の伝承活動を網羅する地域文化データベースとして次世代に継承するために、映像記録・資料（アーカイブス）を収集しています。アーカイブスとは大規模な記録や資料のコレクションの意味です。

このサイトでは、私たちが住む「ふるさと山形」の豊かな地域文化を様々な角度から見るができます。また、子どもたちが伝承活動を自ら学ぶことにより社会との関わり方などを習得する機会となるほか、地域文化の保存団体同士の交流発展の機会となることなどが期待されます。



(1) 地域文化の伝承と地域の活性化

ふるさと塾は、代々受け継がれてきた地域の文化を、地域の方々自らが教え合い学び合いながら子どもたちに伝承していく活動で、子どもたちに郷土愛を育み、地域も元気になることを目指しています。2015（平成27）年10月31日現在で賛同団体が285団体になりました。

酒田市の農民歌舞伎「黒森歌舞伎」は280年以上1回も休まずに演じられてきました。地元の黒森小学校児童による少年歌舞伎は、2015（平成27）年2月の公演で17回目を迎えました。

真室川町の「安楽城の童唄保存会」は1962（昭和37）年から「安楽城小学校（現・真室川あさひ小学校）」と連携して、「安楽城童唄合唱団」を組織し、「安楽城地域文化伝承祭」や「真室川町の昔話と手づくり紙芝居まつり」などで発表しています。

県の天然記念物に指定されている「チョウセンアカシジミ」の生息地の川西町大塚地区では、1996（平成8）年から地元の大塚小学校の児童も卵数調査や蝶の観察など保護活動に取り組んでいます。

300年に渡って受け継がれてきた東根市小田島の小田島田植踊は、「小田島田植踊保存会」が保存活動を行っていますが、小田島小学校の5年生、6年生全員で構成される「小田島田植踊子供伝承会」も、練習と上演を数多く行っています。

県では、各地域で保存されてきた伝統文化を映像記録として、インターネットで発信するとともに、6月に開催される「さくらんぼ祭り」での「ふるさと芸能のつどい」において多くの賛同団体が発表しています。



さくらんぼ祭りでの清流さけがわ太鼓（山形市七日町）

(2) ふるさと塾 県内賛同団体一覧 (平成27年10月31日現在 285団体)

【山形市】

フラワーキッズ日本伝統文化おもしろ子ども教室
山形県花笠協議会
山形昔語りの会
大曾根餅つき保存会
山形五堰の流れを考える会
滝山つ子クラブ
やまがた紅の会
蔵王半郷松尾囃子保存会
紙ふうせんの会
山形市立鈴川小学校山家田植え踊り

【上山市】

月岡神社甲冑隊保存会少年甲冑隊
上山藩鼓笛楽保存会
とんと昔上山会
秋葉山のヒメサユリをふやそう会
西山ホテル保存会
高松観音お年越餅餅搦行事保存会
遊学橋下塾
上山太鼓囃子鼓流

【天童市】

天童市立天童南部小学校
高橋小学校高橋子ども獅子踊り
天童妙見太鼓保存会
津山の自然を守る会
老野森獅子座保存会
天童市立津山小学校
「湯の上太鼓」上真津村雲龍太鼓流

【山辺町】

大蔵座を愛する会

【中山町】

お香を楽しむ会
八坂神社倭舞教室
中山昔語りの会

【寒河江市】

金谷田植踊り保存会
日本民謡協会山形紅謡会支部
三味線照美会
清助新田大黒舞保存会
幸生小学校郷土クラブ
日和田弥重郎花笠田植踊り

【河北町】

べにの里昔語りの会
溝延地区老人クラブ連合会
西里地区老人クラブ連合会
北谷地区老人クラブ連合会
NPO法人河北まちづくりネットワークひまわり
中部小豆奴
押切田植踊り保存会
巴会

【西川町】

西川少年少女自然塾
西川とんと昔の会
どんびんさんすけ

【朝日町】

八ツ沼角田流獅子踊り保存会
豊龍神社祭礼実行委員会

【大江町】

おおえ昔語りの会
御免町囃子座保存会
大江町歴史民俗資料館サポーター

【村山市】

むらやま昔語りの会
山ノ内太鼓保存会
杉島諏訪太鼓保存会

大槇白山神楽保存会

稲下鹿子踊保存会
楯岡小学校居合道クラブ

【東根市】

神町老人クラブ
東根民話の会
Look for 伝承文化実行委員会
長瀬猪子踊り保存会
長瀬猪子踊りクラブ
小田島田植踊り保存会
小田島田植踊り子供伝承会
関山ばやし保存会
藤助新田菖蒲叩き保存会
桜桃元気太鼓
六田龍太鼓

【尾花沢市】

名木沢豊年田植え踊り教室
野黒沢義経太鼓教室
寺内野尻太鼓教室
延越拓魂太鼓教室
狭沢沢跡保存会
尾花沢まつりばやし保存会
牛房野川のホタルを守る会
宮沢翁塾
尾花沢花笠太鼓
安久戸流花笠踊り保存会
上町流花笠踊り保存会
寺内流花笠踊り保存会
原田流花笠踊り保存会
名木沢流花笠踊り保存会
上の畑焼き陶芸センター
尾花沢市花笠踊りお披露目隊
野沢流霧山太鼓保存会

【大石田町】

雪国鷹巣太鼓保存会
川前地区ギフチョウ・ヒメギフチョウ保護会

【新庄市】

新庄民話の会
萩野鹿子踊保存会
仁田山鹿子踊保存会
隠明寺風保存会

【金山町】

有屋少年番楽
明安子ども歌舞伎伝承会
稲沢番楽保存会
安沢歌舞伎保存会
谷口銀山史跡保存会

【最上町】

東法田田植え舞保存会
瀬見伝統芸能保存会太鼓部会
富山観音太鼓保存会
大福神楽保存会
志茂春馬保存会
最上町立富沢小学校
最上町ワラ細工芸品保存会
わらじの会
山と川の学校

【舟形町】

堀内田植踊り保存会
堀前の国ふながた猿羽根太鼓保存会
幅神楽保存会
長沢子ども遊々塾
ブナの実21
舟形老人クラブ

【真室川町】

安楽城の童唄保存会

平枝番楽保存会

釜淵番楽保存会
八敷代番楽保存会
釜淵囃子保存会
川ノ内囃子保存会
真室川ふるさとクラブ
及位の童歌保存会
甌山探究会
梅の里太鼓保存会
真室川音頭保存会
真室川民話の会

【大蔵村】

合海田植え踊り保存会
大蔵太鼓保存会
おおくろ葉山塾

【鮭川村】

鮭川歌舞伎保存会
清流さけがわ太鼓
段の下田植え踊り保存会
鮭川村食生活改善推進協議会
鮭川村サーモンロードの会
鮭川村自然保護委員会
鮭川村子ども育成会連絡協議会

【戸沢村】

北の妙創郷大学
真柄みこし会
蔵岡ふるさと塾
田舎体験塾つのかの里
乙夜塾
神田妙見塾
松坂自然塾
角川太鼓を育てる会
角川ふるさと委員会
神田きこり倶楽部
和太鼓さみだれ

【米沢市】

六郷豊饒太鼓推進委員会
敬師太鼓推進委員会
米沢とんと昔の会
万世梓山子ども獅子踊り
米沢市立南原小学校
山上学話会
伝国の社こども狂言クラブ
米澤前田慶次の会
綱木獅子踊り
米沢生物愛好会
おいたま草木塔の会
米沢五中敬師太鼓

【南陽市】

池黒みんなの会
漆山鶴寿会
おりはた川をきれいにする会
漆山公民館
民話会ゆうづる
夕鶴の里友の会
南陽市立宮内小学校
南陽市立漆山小学校
金山地区むらづくり委員会
金山地区はたるの里検討委員会
金山地区太鼓保存会
金山地区だんご下げ保存会
赤湯温泉暴れ獅子太鼓振興会
赤湯温泉暴れ獅子太鼓振興会
赤小太鼓クラブ
赤湯温泉暴れ獅子太鼓振興会
赤中太鼓
鍋田念仏講保存会

【高島町】

まほろば語り部の会
二井宿語り部の会
亀岡念仏踊り保存会
安久津文化財保存会
やまびこ太鼓保存会
たかはた地区語り部の会
山形ふるさと塾高島町実行委員会

【川西町】

川西小松豊年獅子踊保存会
チョウセンアカシジミを守る会・川西町
里山と下小松古墳群を守る会
川西昔ばなしの会

【長井市】

長井市中央地区女性の会
致芳地区文化振興会
NPO法人日本けん玉協会長井支部
食文化を守る会
伊佐沢地区老人クラブ連合会
長井黒獅子研究会
豊田少年少女河井獅子踊り
平野小学校平小獅子踊り
長井市立伊佐沢小学校
少年少女五十川獅子踊り
昔語りの会 長井小町の会
長井まちづくりNPOセンター
平野昔語りの会

【小国町】

古田歌舞伎保存会
おぐに盆踊り保存会
おぐに話部ゆるり座

【白鷹町】

荒砥地区子獅子育成保存会
八乙女の舞保存会
鮎貝七五三獅子舞獅子連
白鷹ふる里体験塾
鮎貝語り部クラブ
萩野子獅子保存会

【飯豊町】

東部地区高砂会
中津川の昔を語ろう会
いいで昔語りの会

【鶴岡市】

山五十川古典芸能保存会
文殊太鼓保存会
岩ゆり太鼓振興協力会
関川しな織協同組合
大山祭奴振保存会
鶴岡市立加茂小学校
「森の人」講座実行委員会
大綱子ども大黒舞
山形県立鶴岡中央高等学校
天魄太鼓部
羽黒太鼓こどもクラブ
丸岡桐箱踊等保存会
鶴岡市立櫛引東小学校
念珠閣辨天太鼓創成会
少年少女古典素読教室
東栄小学校「獅子踊り」
田川民話の会
西荒川子供獅子舞保存会
大山いざや巻保存会
薬工芸部会
かたばみ太鼓

【庄内町】

西袋獅子踊保存会

跡神楽保存会
吉岡・生三獅子舞保存会
キッズ☆わだこ
西野神楽保存会

【三川町】

フェスティバルざっこしめ
三川町立東郷小学校
横山小学校 伝承クラブ
わくわく体験塾

【酒田市】

黒森歌舞伎
松諏社
坂本獅子踊保存会
年中行事でござり百万遍念仏
酒田ばやし保存会
鶴渡川原人形伝承の会
檜橋神代神楽保存会
万里の松原に親しむ会
酒田市立地見興屋小学校
松山小学校狂言クラブ
浜田小学校北前太鼓クラブ
宮野浦神楽保存会
酒田市立松原小学校
酒田市立西荒瀬小学校
酒田市立十坂小学校
中平田子供神楽
琢成小学校PTAビオトープ委員会
大沢太鼓保存会
黒森少年歌舞伎・少年太鼓
酒田市立広野小学校
浜田ジュニア箏合奏団
箏・三絃 秋麗会
地見っ子ふれあい協議会
かたりべ玉てばこ
亀ヶ崎小学校鶴渡川原人形クラブ

【遊佐町】

杉沢比山連中
横町神代神楽保存会
蔵岡延年の舞保存会
吹浦小学校鳥海太鼓
蔵岡小学校 比山体操
遊佐とんびんかたりの会
内ノ目おかめ神楽保存会
吹浦祭協賛会
遊佐町立遊佐小学校
(諏訪部権三郎氏記念会)
遊佐町立藤崎小学校
みわの会

【広域】

山形県老人クラブ連合会
教育ボランティア山形支部
教育ボランティア上山支部
教育ボランティア北村山支部
教育ボランティア寒河江・西村山支部
教育ボランティア米沢支部
教育ボランティア東置賜支部
教育ボランティア西置賜支部
教育ボランティア田川支部
里の自然文化共育研究所
おいしい山形の食と文化を考える会
NPO法人yamagata1
だがしや楽校・だがしや倶楽部
置賜社会教育振興会
スポネットおきたま



Nearly 300 groups in Yamagata have joined the “Yamagata *Furusato Juku*,” which passes on local traditional culture to children. In Sakata, Kuromori-*kabuki* is passed down to children as “*Shonen-kabuki*,” performed by the boys and girls of Kuromori Elementary School. Elementary school students in Mamurogawa sing old children’s songs handed down in the community.

The *chosen-akashijimi* (Korean hairstreak butterflies), designated as a prefectural protected species, live in Kawanishi Town. Children of Otsuka Elementary School observe the butterflies, counting their eggs. At Odajima Elementary School in Higashine, children practice and perform a rice planting dance passed down through the local community.

In June every year, the Cherry Festival is held in downtown Yamagata City. Along Nanoka-machi street, you will see various traditional dance, music, and other cultural arts performances.